

## 序章.調査概要

### 1. 調査目的

野田市では、平成16年1月9日にコミュニティバス「まめバス」の運行を開始し、利用促進や燃料費の高騰による事業費の増加等に対応するため見直しを重ね、平成31年4月から新たに12ルートで、市民の生活圏域に合った運行に見直している。

こうした中で、人口減少や高齢化が進む現状と将来を見据えつつ、コロナ禍による生活様式の変化に応じた利便性向上に加え、まめバスのみでは市民の移動を支援できない交通不便地域について、新たな地域公共交通の検討が必要である。

そこで、本調査は、令和6年度の新運行計画の開始に向け、基礎調査として、市民へのヒアリング、まめバス利用調査、福祉タクシー利用実態調査、デマンド交通の先進市事例の調査分析等を実施し、新たな運行計画の改定を支援するものである。

### 2. 報告書の構成

仕様書の項目	報告書の構成	
(1)まめバスを利用しない理由等のヒアリング等の実施	第1章.まめバスの実態調査	(1)まめバスを利用しない理由等のヒアリング等の実施
(2)まめバス利用者の居住範囲等把握の利用調査の実施		(2)まめバス利用者の居住範囲等把握の利用調査の実施
(3)福祉タクシーの利用目的及び移動傾向等の把握調査の実施	第2章.福祉タクシーの実態調査	
(4)調査結果の取りまとめ	第3章.調査結果の取りまとめ	
(5)先進市デマンド交通を市に導入した場合の調査分析の実施	第4章.新たな地域公共交通の調査分析	
(6)まめバスの効果的な運行ルート等の設定のための課題整理	第5章.まめバスの効果的な運行ルート等の設定のための課題整理	
	資料編. 令和4年度 第1回コミュニティバス等対策審議会資料	

# 第1章.まめバスの実態調査

## 1. 調査概要

本調査では、コロナ禍等におけるリスク回避や幅広い年代から意見を徴収するため、仕様書の調査対象を満たす別の調査方法の追加や変更等を行う。

仕様書の項目		実施した調査項目
(1)まめバスを利用しない理由等のヒアリングの実施	1.バス停の 300m以内区域在住者への訪問ヒアリング	①沿道市民アンケート ②自治会の班長会等におけるグループインタビュー
	2.高齢者が集まるイベント等におけるアンケート	同左 ③高齢者アンケート
(2)まめバス利用者の居住範囲等把握の利用調査の実施	3.OD調査及び利用者ヒアリング	同左 ④OD調査 ⑤バス利用者アンケート

### 【調査概要】

調査項目		方法	実施時期	回収数
(1)まめバスを利用しない理由等のヒアリングの実施	①沿道市民アンケート	市が指定した地域※1 次頁参照を対象に QR コード付きアンケート調査票をポスティング(500 票配布)	令和4年6月	38 票
	②自治会グループインタビュー	自治会の会合にてグループインタビューとアンケート(4ヵ所)	令和4年5月29日～6月5日	88 票
	③高齢者アンケート	のだまめ学校及びシルバーリハビリ体操の参加者、民生委員へのアンケート		285 票
(2)まめバス利用者の居住範囲等把握の利用調査の実施	④OD調査	市が指定したバス※2 次頁参照に調査員がバスに乗り込みバス停乗降調査(利用者936人)	令和4年5月20日(金)、21日(土)	—
	⑤バス利用者アンケート	調査員が利用者にビンゴ形式のアンケートを配布、回収		574 票

## 第3章.調査結果のとりまとめ

### (1)まめバス

#### 【利用実態】

##### ①利用者の属性

- ・ 60歳以上の方の利用が5割を占める一方で、50歳代以下の各年代で概ね1割程度の利用があり、幅広い年齢層が利用している。
- ・ 利用者の外出頻度は「ほぼ毎日」が約5割を占め、「週に1～2回」が約3割である。
- ・ 利用者の免許の保有状況は約6割が保有しておらず、その内の約 1.5 割が自主返納した方である。

##### ②自宅からバス停までの徒歩時間

- ・ 5 分以内が約4割、5分～10分が約3割、15分以上が約2割であり、特に北ルート関宿（七光台）や南ルート大殿井は「15 分以上」と回答した割合が高い。
- ・ この結果を、一般的な歩行速度で歩行距離に換算すると、一般者で約680m、高齢者で約440mと、一般的な徒歩圏（300m）に比べ広く、傾向として鉄道駅から遠いバス停周辺のほうが、徒歩圏域が広い。

##### ③利用頻度

- ・ 「週に1～2回」が約4割で最も多く、「ほぼ毎日」が約2割であり、定期的に約6割の方が利用している。南ルート大殿井は「ほぼ毎日」が約4割と他に比べ多い。

##### ④利用目的

- ・ 「買物・私事」が約5割を占め、次に「通勤・通学」が約3割、「通院」が約2割である。

##### ⑤他の交通への乗り継ぎ

- ・ 乗り継ぎをするのは約6割、「乗り継ぎしない」が約3割である。乗り継ぎは、「鉄道」が約5割を占め、「まめバスの他の路線」が約1割である。
- ・ 特にバスターミナルを持つ北ルート関宿（七光台・イオンタウン経由）、南ルート大殿井は「路線バス」への乗り継ぎが他に比べ高い。

##### ⑥バスの乗降場所

- ・ 目的地は川間駅、愛宕駅、野田市駅、梅郷駅、イオンタウン、市役所等の特定の施設への利用が集中しているものの、出発地は多くのバス停から分散して利用している。

##### ⑦まめバス以外の外出時の主な交通手段

- ・ 「徒歩」が約5割を占め、「自転車」が約3割である。一方で、「路線バス」に比べ「鉄道」が約4割で多く、代替の交通手段が利用しづらい状況にあることが伺える。

#### 【利用ニーズ】

- ・ まめバスの利用で重視することは「料金が安い」が約6割を占め、「バス停まで近い」が約5割、「運行本数が多い」が約3割である。

### 【運賃改定】

- ・ 「増額したら利用しない」が約2割であるが、約6割の方は増額しても利用すると回答しており、「200円までなら利用する」が約2割、「150円までなら利用」が約4割である。
- ・ 距離が延びれば料金を上げて良いのではないか等の意見がある。

### 【利用しない人の交通手段、まめバスの認知の状況や改善要望】※主に高齢者の意見

- ・ 利用しない人の交通手段は「自らが運転する」が約6割で最も多く、「自転車」と「徒歩」が各々約2割である。まめバスは免許返納後の交通手段として期待している意見がある。
- ・ 行きたい場所までのまめバスの運行状況は約5割が「知らない」と回答している。
- ・ 利用するためには、「運行本数が多くなったら」が約5割で最も多く、30分から1時間に1本程度の増便を望んでいる。次に「利用したい時間にバスがあったら」が約4割であり、「帰りに利用できる便」や「朝8～9時台の便の充実」等の意見がある。
- ・ 約5割が「現在使っている交通手段が利用できなくなったら利用する」と回答しており、自動車を利用できるうちは、まめバスを利用しないことが伺える。
- ・ また、バス停を近くする、ルートや時刻表を分かりやすくする、利用が多いバス停にはベンチや上屋を整備するなどの意見もある。
- ・ 運転手のマナーが悪い、教育活動が必要との意見がある。